

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5371328号
(P5371328)

(45) 発行日 平成25年12月18日 (2013.12.18)

(24) 登録日 平成25年9月27日 (2013.9.27)

(51) Int.Cl. F 1
E O 4 H 1/02 (2006.01) E O 4 H 1/02
E O 4 F 19/08 (2006.01) E O 4 F 19/08 1 O 2 P

請求項の数 4 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-221917 (P2008-221917)	(73) 特許権者	307042385
(22) 出願日	平成20年8月29日 (2008.8.29)		ミサワホーム株式会社
(65) 公開番号	特開2010-53639 (P2010-53639A)		東京都新宿区西新宿二丁目4番1号
(43) 公開日	平成22年3月11日 (2010.3.11)	(74) 代理人	100090033
審査請求日	平成23年8月11日 (2011.8.11)		弁理士 荒船 博司
		(72) 発明者	仁木 政揮
			東京都杉並区高井戸東2丁目4番5号 ミサワホーム株式会社内
		審査官	土屋 真理子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 階床の一部の上方に中間床が設けられ、この中間床の下方が、天井高が 0.9 ~ 1.4 m の収納空間となっており、前記中間床の上方が、天井が 2 階床より高い中間部屋となっている建物において、

前記中間部屋の天井は、前記 1 階床の上方側に向けて水平に延出する延出天井となっており、

前記 1 階床から前記延出天井まで吹き抜ける吹抜け空間が前記中間部屋に面して設けられており、

前記吹抜け空間の平断面の少なくとも一部には、収納部が前記延出天井から垂下して設けられており、この収納部の前記中間部屋側に位置する縁部には、開口部が設けられており、

前記中間床の前記吹抜け空間側に位置する縁部には、手摺部が前記開口部の下方において設けられていることを特徴とする建物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の建物において、

前記手摺部は透明な手摺壁で構成されており、この手摺壁の上端と、前記収納部の前記開口部が設けられた前記中間部屋側の下端との間に隙間が設けられていることを特徴とする建物。

【請求項 3】

10

20

請求項 1 または 2 に記載の建物において、

前記吹抜け空間の上部の一部を形成している 2 階の内壁には、当該 2 階の内壁に面する前記収納部に物を出し入れ可能な第 2 開口部が形成されていることを特徴とする建物。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の建物において、

前記収納部には、棚板が前記 2 階床と等しい高さに設けられていることを特徴とする建物。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

10

本発明は、1 階に設けられた中間床の下方が収納空間となっており、中間床の上方が、天井が 2 階床より高い中間部屋となっている建物に関する。

【背景技術】

【0002】

前記のような建物の一例として特許文献 1 に記載のものが知られている。この建物は、1 階床の一部の上方に中間床が設けられ、この中間床の下方が天井高が 0.9 ~ 1.4 m の収納空間となっており、前記中間床の上方が、天井が 2 階床より高い中間部屋となっている。

また、1 階床から、前記中間部屋の天井から水平に延出する延出天井まで吹き抜ける吹抜け空間が前記中間部屋に面して設けられている。

20

さらに、2 階床の一部の上方には 2 階中間床が、前記中間部屋の天井と等しい高さに設けられており、この 2 階中間床と 2 階床との間が天井高が 0.9 ~ 1.4 m の第 2 収納空間となっている。

そして、この第 2 収納空間は前記吹抜け空間に面して設けられており、該第 2 収納空間を形成する、前記吹抜け空間に面する壁には、開口部が形成されており、この開口部に位置する第 2 収納空間の床に、薄型のテレビが設置され、このテレビを前記中間部屋から吹抜け空間を通して見られるようになっている。

【特許文献 1】特開 2006 - 45882 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

30

【0003】

ところで、前記中間部屋に収納部を設ける場合、この収納部の分だけ中間部屋の面積が小さくなってしまう。そこで、前記第 2 収納空間の一部を中間部屋用の収納部として利用することも考えられるが、中間部屋と第 2 収納空間の間には吹抜け空間が介在しているので、中間部屋から第 2 収納空間に物を出し入れし難いという問題がある。

【0004】

本発明は上記事情に鑑みてなされたもので、中間部屋の面積を小さくすることなく、該中間部屋から容易に利用できる収納部を備えた建物を提供することを課題としている。

【課題を解決するための手段】

【0005】

40

上記課題を解決するために、請求項 1 に記載の発明は、例えば図 1 ~ 図 5 に示すように、1 階床 1 の一部の上方に中間床 2 が設けられ、この中間床 2 の下方が、天井高が 0.9 ~ 1.4 m の収納空間 3 となっており、前記中間床 2 の上方が、天井 21 が 2 階床 22 より高い中間部屋 20 となっている建物において、

前記中間部屋 20 の天井 21 は、前記 1 階床 1 の上方側に向けて水平に延出する延出天井 21a となっており、

前記 1 階床 1 から前記延出天井 21a まで吹き抜ける吹抜け空間 23 が前記中間部屋 20 に面して設けられており、

前記吹抜け空間 23 の平断面の少なくとも一部には、収納部 25 が前記延出天井 21a から垂下して設けられており、この収納部 25 の前記中間部屋 20 側に位置する縁部には

50

、開口部 2 5 a が設けられており、

前記中間床 2 の前記吹抜け空間 2 3 側に位置する縁部には、手摺部 3 2 が前記開口部 2 5 a の下方において設けられていることを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

請求項 1 に記載の発明によれば、1 階床 1 から延出天井 2 1 a まで吹き抜ける吹抜け空間 2 3 の平断面の少なくとも一部に、収納部 2 5 が前記延出天井 2 1 a から垂下して設けられており、この収納部 2 5 の中間部屋 2 0 側に位置する縁部には、開口部 2 5 a が設けられているので、中間部屋 2 0 から収納部 2 5 に容易に物を出し入れできる。

また、収納部 2 5 は吹抜け空間 2 3 に存在しており、中間部屋 2 0 に存在していないので、中間部屋 2 0 の面積を小さくすることもない。

10

【 0 0 0 8 】

また、中間床 2 の吹抜け空間 2 3 側に位置する縁部に、手摺部 3 2 が開口部 2 5 a の下方において設けられているので、住人が中間床 2 から吹抜け空間 2 3 側に落ちるのを防止できる。

【 0 0 0 9 】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の建物において、

前記手摺部 3 2 は透明な手摺壁 3 2 で構成されており、この手摺壁 3 2 の上端と、前記収納部 2 5 の前記開口部 2 5 a が設けられた前記中間部屋 2 0 側の下端との間に隙間 S が設けられていることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

20

請求項 2 に記載の発明によれば、手摺部 3 2 は透明な手摺壁 3 2 で構成されているので、中間部屋 2 0 から 1 階床 1 上の部屋（リビングダイニング 9）を見ることができる。また、手摺壁 3 2 の上端と、前記収納部 2 5 の前記開口部 2 5 a が設けられた前記中間部屋 2 0 側の下端との間に隙間 S が設けられているので、この隙間 S を通して、中間部屋 2 0 と 1 階床 1 上の部屋（リビングダイニング 9）との間で空気や音が流通し、換気やコミュニケーションをとることができる。

【 0 0 1 1 】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 または 2 に記載の建物において、

前記吹抜け空間 2 3 の上部の一部を形成している 2 階の内壁 3 0 には、当該 2 階の内壁 3 0 に面する前記収納部 2 5 に物を出し入れ可能な第 2 開口部 2 5 b が形成されていることを特徴とする。

30

【 0 0 1 2 】

請求項 3 に記載の発明によれば、収納部 2 5 を 2 階の部屋からも使用することができるので、便利である。

【 0 0 1 3 】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 3 に記載の建物において、

前記収納部 2 5 には、棚板 2 5 c が前記 2 階床 2 2 と等しい高さに設けられていることを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

請求項 4 に記載の発明によれば、収納部 2 5 に、棚板 2 5 c が 2 階床 2 2 と等しい高さに設けられているので、2 階床 2 2 から収納部 2 5 に物を水平移動させて出し入れできる。

40

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

本発明によれば、1 階床から、中間部屋の天井から水平に延出する延出天井まで吹き抜ける吹抜け空間が前記中間部屋に面して設けられており、前記吹抜け空間の少なくとも一部に、収納部が前記延出天井から垂下して設けられており、この収納部の中間部屋側に位置する縁部には、開口部が設けられているので、中間部屋から収納部に容易に物を出し入れできる。また、収納部は吹抜け空間に存在しており、中間部屋に存在していないので、中間部屋の面積を小さくすることもない。しかも、中間床の吹抜け空間側に位置する縁部

50

に、手摺部が開口部の下方において設けられているので、住人が中間床から吹抜け空間側に落ちるのを防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

以下図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

図1は本発明に係る建物の縦断面図、図2は同建物の1階の平面図、図3は同建物の2階の平面図、図4は同建物の2.5階の平面図である。

図1に示すように、1階床1の一部の上方には中間床2が設けられており、この中間床2の下方、つまり中間床2と1階床1との間が収納空間3となっている。この収納空間3の天井高は0.9～1.4mとなっている。

10

【0017】

図2に示すように、収納空間3は建物の北側の外壁、この外壁に平行な内壁4、この内壁4と前記外壁とに直交する二つの内壁5, 6によって矩形状に囲まれており、内壁4と内壁5とにそれぞれ収納空間3への出入口3a, 3bが形成されている。

出入口3aには図2において左右に移動可能な家具7, 7が収納空間3側に設けられており、この家具7, 7によって出入口3aが開閉されるようになっている。また、出入口3bは引戸8によって開閉されるようになっている。

【0018】

収納空間3の南側には、リビングダイニング9が配置されており、このリビングダイニング9の東側に玄関10が配置されている。玄関10の玄関土間10aには、北側に向けて延在する土間廊下11が配置されている。この土間廊下11の北側の端部には、ホール12が隣接配置されており、このホール12に前記収納空間3への出入口3bが面している。

20

また、リビングダイニング9の西側には、キッチン13が配置されており、このキッチン13の北側に洗面室14と浴室15が配置されている。浴室15の東側にはトイレ16が配置されており、このトイレ16を形成する内壁と収納空間3を形成する内壁6との間に、1階床1から中間床2に至る階段17が配置されている。階段17の上端は中間床2と等しい高さに設けられた踊り場18(図3参照)に接続されている。

【0019】

前記中間床2の上方は中間部屋20となっており、この中間部屋20への出入口は前記踊り場18に面して設けられている。また、中間部屋20の天井21は2階床22より高くなっている。

30

中間部屋20の天井21は、1階床1の上方側に向けて水平に延出しており、この延出天井21aと1階床1との間に吹抜け空間23が設けられている。つまり、1階床1から延出天井21aまで吹き抜ける吹抜け空間23が設けられており、この吹抜け空間23は前記中間部屋20に壁がない状態で面している。

【0020】

前記吹抜け空間23の上部には、収納部25が前記延出天井21aから垂下して設けられている。収納部25は、吹抜け空間23の平断面全体に設けられており、該収納部25の下面は1階の天井1aとほぼ等しい高さになっている。

40

また、図3に示すように、中間部屋20を形成する内壁26, 27は前記吹抜け空間23側に延出しており、この延出壁26a, 27aが前記収納部25の側壁を構成している。なお、内壁26は前記収納空間3に設けられた内壁3c上に配置され、内壁27は収納空間3を形成する内壁5上に配置されている。

【0021】

収納部25は、図3に示すように、平面視において、左右に長尺な長方形に形成されており、この収納部25の開口部25aは中間部屋20側に向いている。開口部25aには3組の両開き戸28が設けられており、該両開き戸28によって開口部25aが開閉されるようになっている。

また、図1に示すように、吹抜け空間23の上部は2階の内壁30に面しており、この

50

2 階の内壁 3 0 に収納部 2 5 が隣接している。2 階の内壁 3 0 には、収納部 2 5 に物を出し入れ可能な第 2 開口部 2 5 b が形成されており、この第 2 開口部 2 5 b には、図 3 に示すように、複数の引戸 3 1 が設けられている。これら引戸 3 1 . . . は引違い戸を構成しており、該引戸 3 1 によって第 2 開口部 2 5 b が開閉されるようになっている。

さらに、前記収納部 2 5 には、図 1 に示すように、棚板 2 5 c が 2 階床 2 2 と等しい高さに設けられている。棚板 2 5 c は複数枚設けられており、これらはそれぞれ取外し可能となっている。したがって、収納部 2 5 の平面視における所望の位置に棚板 2 5 c を設けることができるようになっている。

【 0 0 2 2 】

また、図 1 および図 5 に示すように、前記中間床 2 の、前記吹抜け空間 2 3 側に位置する縁部には、手摺部 3 2 が収納部 2 5 の下方において設けられている。この手摺部 3 2 は透明な手摺壁 3 2 で構成されており、この手摺壁 3 2 の上端部には笠木が設けられている。また、手摺壁 3 2 の上端の笠木と収納部 2 5 の上端との間には隙間 S が設けられている。

10

【 0 0 2 3 】

図 3 に示すように、前記踊り場 1 8 と 2 階床 2 2 との間には階段 3 3 が設けられており、この階段 3 3 の下り口には左右（東西）方向に延在する廊下 3 4 が配置されており、この廊下 3 4 に面して前記引戸 3 1 が設けられている。廊下 3 4 の南側には部屋 3 5 が配置されており、この部屋 3 5 の西側に部屋 3 6 が配置されている。また、部屋 3 5 の東側にはバルコニー 3 7 が配置されている。

20

部屋 3 6 の北側には、第 2 収納空間 3 8 が配置されている。この第 2 収納空間 3 8 は 2 階床 2 2 と、この 2 階床 2 2 の一部の上方に設けられた第 2 中間床との間に設けられたものであり、天井高は 0 . 9 ~ 1 . 4 m となっている。この第 2 中間床と、前記中間部屋 2 0 の天井 2 1 が下面に設けられた第 2 中間床 3 0（図 1 参照）とは等しい高さとなっている。

【 0 0 2 4 】

前記廊下 3 4 の西側の端部には、2 階床から 2 . 5 階の床に至る階段 4 1 が設けられており、この階段 4 1 の上端部は、図 4 に示すように、ホール 4 2 に接続されている。このホール 4 2 の東西にそれぞれ部屋 4 3 , 4 4 が配置されている。また、ホール 4 2 の北側にはトイレ 4 5 が配置されている。また、部屋 4 4 の南側には、ロフト 4 6 が配置されている。

30

【 0 0 2 5 】

本実施の形態によれば、1 階床 1 から延出天井 2 1 a まで吹き抜ける吹抜け空間 2 3 の平断面の全体に、収納部 2 5 が前記延出天井 2 1 a から垂下して設けられており、この収納部 2 5 の開口部 2 5 a が中間部屋 2 0 側に向いているので、中間部屋 2 0 から収納部 2 5 に容易に物を出し入れできる。

また、収納部 2 5 は吹抜け空間 2 3 に存在しており、中間部屋 2 0 に存在していないので、中間部屋 2 0 の面積を小さくすることもない。

さらに、吹抜け空間 2 3 の上部は 2 階の内壁 3 0 に面しており、この 2 階の内壁 3 0 に前記収納部 2 5 が隣接しており、前記 2 階の内壁 3 0 に、収納部 2 5 に物を出し入れ可能な第 2 開口部 2 5 b が形成されているので、収納部 2 5 を 2 階の廊下 3 4 や部屋からも使用することができるので、便利である。

40

加えて、収納部 2 5 には、棚板 2 5 c が 2 階床 2 2 と等しい高さに設けられているので、2 階床 2 2 から収納部 2 5 に物を水平移動させて出し入れできる。

【 0 0 2 6 】

また、中間床 2 の、吹抜け空間 2 3 側に位置する縁部には、手摺部 3 2 が収納部 2 5 の下方において設けられているので、住人が中間床 2 から吹抜け空間 2 3 側に落ちるのを防止できる。

また、手摺部 3 2 は透明な手摺壁 3 2 で構成されており、この手摺壁 3 2 の上端と、前記収納部 2 5 の下端との間に隙間 S が設けられているので、中間部屋 2 0 から 1 階床 1 上

50

のリビングダイニング 9 を見ることができ、またこの隙間 S を通して、中間部屋 2 0 と 1 階床 1 上のリビングダイニング 9 との間で空気や音が流通し、換気やコミュニケーションをとることができる。

【 0 0 2 7 】

なお、本実施の形態では、1 階床 1 から延出天井 2 1 a まで吹き抜ける吹抜け空間 2 3 の平断面の全体に、収納部 2 5 を前記延出天井 2 1 a から垂下して設けたが、収納部 2 5 は吹抜け空間 2 3 の平断面の少なくとも一部に設けてもよい。

また、本実施の形態では、収納部 2 5 の下面を 1 階の天井 1 a とほぼ等しい高さにしたが、収納部 2 5 の下面は天井 1 a より低くしてもよいし、中間床 2 の上面と等しい高さにしてもよい。

10

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 8 】

【図 1】本発明に係る建物の一例を示すもので、その縦断面図である。

【図 2】同、建物の 1 階の平面図である。

【図 3】同、建物の 2 階の平面図である

【図 4】同、建物の 2 . 5 階の平面図である

【図 5】同、中間部屋から収納部を見た斜視図である。

【符号の説明】

【 0 0 2 9 】

1 1 階床

2 中間床

3 収納空間

2 0 中間部屋

2 1 天井

2 1 a 延出天井

2 2 2 階床

2 3 吹抜け空間

2 5 収納部

2 5 a 開口部

2 5 b 第 2 開口部

2 5 c 棚板

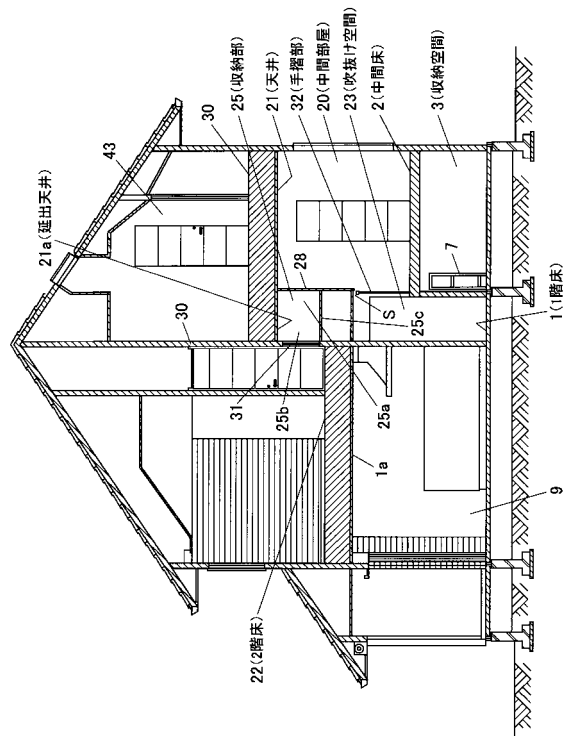
3 0 2 階の内壁

3 2 手摺部

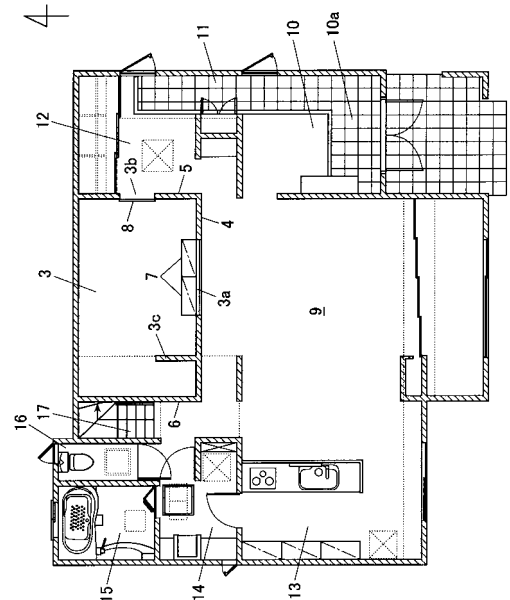
20

30

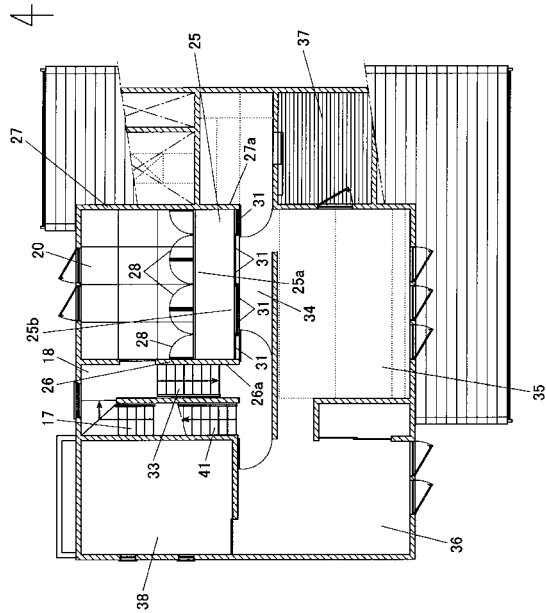
【図 1】



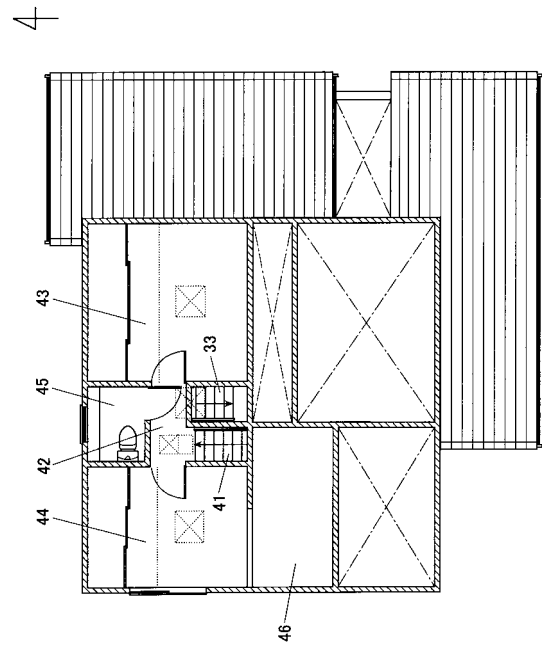
【図 2】



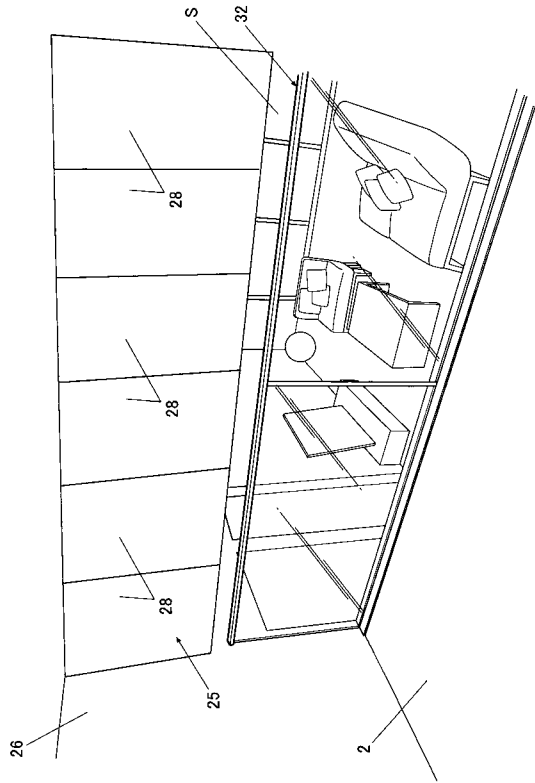
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 0 7 - 1 3 2 1 5 4 (J P , A)
特開 2 0 0 8 - 0 4 5 3 0 0 (J P , A)
特開 2 0 0 5 - 0 6 1 2 1 4 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
E 0 4 H 1 / 0 2
E 0 4 F 1 9 / 0 8